

4章2節 「学びのテキスタイル」

酒井将平

4章2節1 教材の位置づけとねらい

「学びのテキスタイル」というツールを開発しました。同じ空間に、いろいろな考えを持った人が集まって同じ問題を考えることの面白さを感じてもらおうこと、様々な考えの中で自分の考えが変容し、学びが織りなされていく様子を捉えることがねらいです。ツールの作り方と使用場面、コツについて説明しました。

keyword : Connections、クラスメイト、洞察を促す問い、観点

1 授業の中でどんな課題を感じていたか？

自分の考えを言うことが怖い、間違えた答えを消して先生が言った答えに書き換える、あるいは先生が答えを言うまで何も書かない。授業内のそういう雰囲気に課題を感じていました。この雰囲気にはいろいろな要因が考えられますが、その1つに、いろいろな考えを持った人が同じ教室に集い、同じ問題を考えているということの面白さ、楽しさを共有できていないことがあるのではないかと思います。

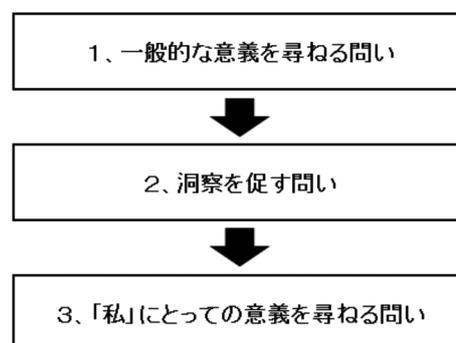
2 どんなツールを開発したか？

考えたのは「学びのテキスタイル」というツールです。自分の学びが、学習内容とのつながりや、クラスメイトの学びとのつながりの中で変容していくことを促すという点で、Connections のツールと言えます。

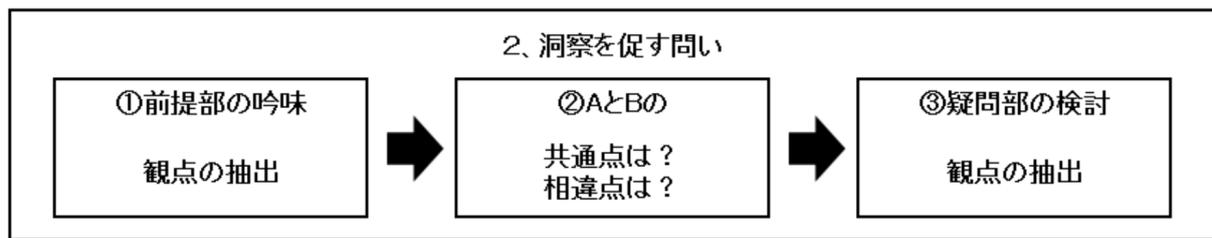
3 どのように使うか？

まず、縦に3つの問いを配置します。一番上が「一般的な意義を尋ねる問い」、真ん中が「洞察を促す問い」、一番下が「『私』にとっての意義を尋ねる問い」です。「洞察を促す問い」は「Aであるにもかかわらず、Bなのは どうして？」という形を基本とする問いです。「洞察を促す問い」にはいくつかの種類があると考えられますが、ここでは「Aというカテゴリーに属するならばaである」という見方、考え方ではBをうまく処理できない場合を扱います。

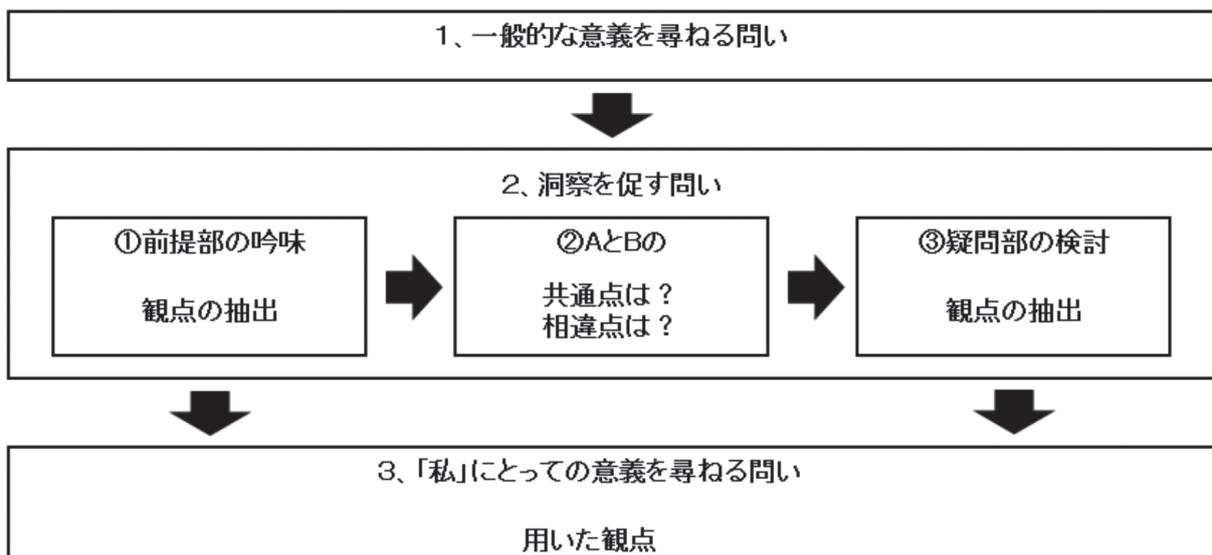
「洞察を促す問い」を考えるためには、問いを前提部と疑問部に分け、前提部を吟味し、「A」と「B」の共通点と相違点を考えたうえで、疑問部を検討することになります。前提部の吟味、疑問部の検討で



は、それぞれ観点を抽出することができます。



最後に、抽出された観点を組み合わせて、「3、『私』にとっての意義を尋ねる問い」を考えることとなります。答えを考える時に用いた観点をメモします。



これまで扱った問いに対する答えは、同じ教室の中でも人によって異なるはずです。そして、自分とは異なったクラスメイトの考えが、次の問いを考えるための大きな手がかりになります。そこで、クラスメイトと考えを共有しメモするためのスペースが必要となります。

このようにして、学習内容と自分の考え、クラスメイトの考えによって、学びが織りなされていく様子を1枚のプリントで捉えることができます。古典「桐壺」の授業で使う場合の例を次に示します。

学びのテキストスタイル		学びのテーマ 「愛」とはどういうものか	
フェーズ	私の考え		クラスメイトの考え
1	「愛」にはどんな力があると思いますか？		
2	① そもそも、我々が「愛」する人を不幸にしたくないのはなぜか？	② 我々の愛する人に対する「愛」と、帝の桐壺に対する「愛」の共通点と相違点は？	観 点
		●共通点	
	観点で表現すると？	●相違点	
3	あなたにとって愛とはどのようなものですか？		
	<用いた観点>		

4 どんな場面で使うことができるか？

- ①一連の学びの中盤、あるいは学びの総括的な振り返りとして使うことができます。
- ②上の段のみを学びの導入で使い、中段を学びの中盤で、下段を学びのまとめとして使うこともできます。

5 使い方のコツは？

洞察を促す問い「Aであるにもかかわらず、Bなのはどうして？」によってAとBの対立を揺さぶり、新たな観点から捉え直すことができるようにする必要があります。洞察を促す問いが十分に機能しなかった場合には、さらに前提を疑うような問い「本当に〇〇か？」のようなもので揺さぶりをかける必要があります。手順が複雑ですので、最初は指示を丁寧に、考える時間や共有できる時間をとる必要があります。正解するかどうかではなく、自分の考えとクラスメイトの考えの違いを大切に、それが変わっていく様子を楽しむことが大切です。

4章2節2 教材の試行

「学びのテキスタイル」を実際に使ってみた結果、生徒の答えに一定の考えの変容が見られましたが、洞察を促す問いが抽象的になってしまい十分に深まりませんでした。使い方やタイミングに注意する必要があると感じました。

keyword : Connections、クラスメイト、洞察を促す問い、観点

1 何の授業で使ったか？

「探究ナビⅡ」という授業で使いました。この授業は「総合的な学習の時間」の代わりに取り組んでいる授業です。2年生の必修授業で、週1回、2時間連続で行われています。

2019年度の「探究ナビⅡ」では、「課題解決」に取り組む中で、「学び」に対する考え方を深めるということをねらいとしました。

2 どんな場面で使ったか？

1年間の授業の最後の振り返りとして、「学びのテキスタイル」を使いました。

3 どのように使ったか？

1時間の中で、それぞれの問いを考えてもらいながら、クラスメイトと交流をしてもらいました。

学びのテキスタイル		学びのテーマ 「学ぶ」とはどのようなものか	
フェーズ	私の考え		クラスメイトの考え
1	「学び」にはどんな力があると思いますか？		
2	① そもそも、「わかっている」と感じるのはなぜか？	② 「わかっていること」と「できる」ことの共通点と相違点は？	
		●共通点	
		●相違点	
	観点で表現すると？	観点で表現すると？	観 点
3	あなたにとって「深い学び」とはどのようなものですか？		
	<用いた観点>		

用いた問いは以下の通りです。

1. 「学び」にはどんな力があると思いますか？
- 2①. そもそも「わかっている」と感じているのはなぜですか？
- 2②. 「わかっている」ことと「できる」ことの共通点と相違点は？
- 2③. 「わかっている」にもかかわらず「できない」のはなぜですか？
3. あなたにとって「深い学び」とはどのようなものですか？

4 実際に使ってみてどうだったか？

プリントを完成させるまでの手続きが多いので不安がありましたが、しっかりと最後まで取り組んでいました。1年間の振り返りとして取り組んだので、問いが抽象的になってしまい、十分に機能していませんでした。中段の問いで洞察を促すためには、具体的な経験を掘り起こしながら進める必要があったと感じています。また、「わかっている」と「できる」の関係性を揺さぶるには、前提を問い直すような問い、たとえば「本当に、わかっていないとできないのだろうか？」などを使って働きかけるとさらによかったと思います。生徒の「学び」に対する考えには一定の変容が見て取れました。

5 生徒の変化や今後の課題は？

「3 あなたにとって『深い学び』とは、どのようなものですか」という問いに対する生徒の答えを以下に示します。複数の観点をういた面白い答えが生まれました。

- ◎教えてもらったことを自分の中で解釈し、自分なりの言葉や行動にできるようになる学び。
- ◎自分の知識や解釈をより一層深めることで、行動につながり、それが経験を生み、また新しい疑問が生まれてくるような学び。
- ◎活用することができ、感情が伴っていて、学んだ後に利益が生まれる学び。
- ◎日常の何でもないことに疑問を持ち、なぜそうなるかを考えて理解し、得たことを自分の生活に生かすことができる学び。
- ◎自分なりの答えを導き出し、他者の意見を聞き、また新たな問いを生み出すような学び。

課題としては、手続きが多く、シンプルさに欠けることが挙げられます。この点については更なる改良を加える必要があります。また、「洞察を促す問い」を十分に機能させるための工夫が必要だと感じました。